

【47】 よこはま・たそがれ

小説家宮本 輝（みやもと てる）の紀行文集「異国の窓から」（光文社文庫）を読んでいたら、ドナウ川旅行の場面でハンガリーのアディ・エンドレという詩人の古い詩が紹介されていました。その一つに；

ひとり海辺で
海辺、たそがれ、ホテルの小部屋。
あの人は行ってしまった。 もう会うことはない。
あの人は行ってしまった。 もう会うことはない。

というのがありました。

アレ？何処かで聞いたような気がすると思いましたが、宮本も同じ感想を記しています。

そう、私たちが知っているのは；

よこはま・たそがれ
横浜、たそがれ、ホテルの小部屋。
口付け、残り香、タバコの煙。
ブルース、口笛、女の涙。
あの人は行って行ってしまった。
あの人は行って行ってしまった。
もう帰らない。

です。

この歌は、昭和46年（1971）に五木ひろしが歌って大ヒットし、私も大好きな歌謡曲の名曲です。

作曲は平尾昌晃ですが、問題の作詞者は、平尾昌晃とコンビを組んで数々の名曲を送り出した山口洋子です。

アディ・アンドレは19世紀末から20世紀初めの人で1919年に亡くなっており、この詩の日本への紹介は、1962年に徳永康元が翻訳、出版したのが初めてですから、「よこはま・たそがれ」はそれより10年ほど後のことになり、盗作の疑いが生じました。

上の詩と歌詞は一般のしろうとにもわかるくらい互いによく似ていますが、アディ・アンドレが遠い異国の人で既に故人となっており、著作権も時効消滅していたので例え盗作としても法的には問題はありません。

創作活動の独創性について道徳的な問題が残り、週刊誌で叩かれたりもしましたが、せっかくの名曲にケチがついたのが残念でした。

以上、つまらない話題の「よもやま話し」で誌面を汚しましたが、年初の笑い話として御容赦ください。